特任施工管理技術者

中央環状品川線工事に配置

首都高速 品質管理の指導・助言

首都高速道路会社は31日、施工管理体制強化の一環で、大成建設と木原建設から採用した2人の技術者を1日付で中央環状品川線シールドトンネル工事の「特任施工管理技術者」として配置すると発表した。現場搬入前など川上段階での資材品質管理や工程管理で主任監督員への提案などを担当する。ともに東京湾アクアライントンネル工事の現場所長だった経歴を持ち、豊富な経験を生かして、品質や工程の管理段階で指導・助言する。

同社は、施工者選定中の横浜環状北線のシールド工事でも助言を受けることを検討している。

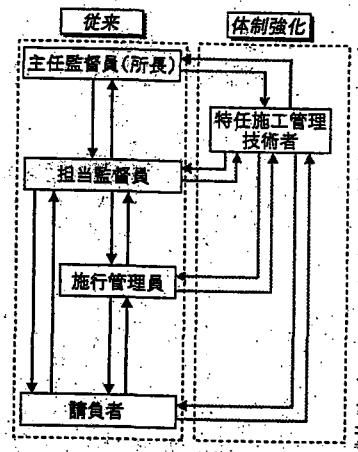
特任施工管理技術者は、施行管理業務全体での主任監督員への提案・助言のほか、現場搬入前の資材品質管理・指導など先行的な品質管理、下請作業や資材調達先、関係機関との協議状況を考慮した工程調整と指導を主に担当する。設計変更でも施工者からの提案の可否に関する意見を同技術者に求めることもある。

また、施工管理上のノウハウや留意点などを同社の社員や施行管理員に指導・アドバイスする技術者教育も担う。

2人の技術者は、首都高速技術センターとの共同で採用し、契約形態は同社の嘱託社員。年金需給年齢までの雇用を想定している。

同技術者の配置は、高度な施工管理体制確立に向けた活動の一環で、状況を見ながらほかの工事でも採用するかなどを検討する考えで、「基本的にはインハウスエンジニアの技術力の維持向上が大前提となる」（建設事業部）としている。横浜環状北線シールド工事でも同技術者を配置するかどうかは固まっていない。

特任施工管理管理者
業務イメージ



◆杉江清（すぎえ きよし）さん（写真右）

1968年に飛島建設入社。シールドトンネルを10現場を経験。うち地下鉄が5現場7本、道路トンネルが1現場1本。道路トンネルは東京湾アクアラインでの現場所長。1月31日時点は木原建設に所属。1日から品川線工事グループに常駐する。61歳。

「経験をより良い品質・工程管理に生かしたい。シールドトンネルは途中での変更が非常に難しい。最初に計画した時点のものをつくり、できたものを現場で使う。対外的な準備も含めて、計画段階が大事で、途中で変更するのは時間などがかかる。都市の大規模な仕事なので、事故があると社会的問題が大きくなることもあり、自分の経験を踏まえ、事前に手を打っていきたい」

◆高木攻（たかぎ おさむ）さん（写真左）

1968年に大成建設入社。7年間土木設計を担当したほか、下水道工事などの現場を経験。92年からトンネル接続まで東京湾アクアラインの現場所長。98年以降、国内・国外の都市インフラ技術を担当した。国内外でおよそ10本のシールドトンネル工事の経験を持つ。1日から大橋建設グループに常駐する。62歳。

「海外では、甲乙のエンジニアが比較的フラットで、立場も変化し、意見も言い合う。わが国でも、ゼネコンは提案方式の入札が増えており、技術者の技術のあり方が変革している時期。その中で40年間近く経験してきた受注者側の技術と新しい発注者側の技術をうまく融合できれば、わが国の土木エンジニアは国内外ともにまだまだ伸びる余地がある。シールド工事は、段取り八分。品質や工程の管理は段取りで決まる。段取りの段階でいかにお互いに良い管理ができるかというのが、非常に大切だと思う」

20年 2月 1日
建設通信新聞